

【議会報告会】

○歴史ある富田幼稚園が廃園になることに大変衝撃を受けた。なぜ課題が解消できず廃園になったのかと思う。

⇒議員 市の方針として認定こども園化を進めていくに当たって、より良いものとなるよう、当委員会でさまざまな議論を重ねている。ご意見として承り、今後の議論の参考としたい。

○他市でのスクールバス園児置き去り事件が先の一般質問でも取り上げられていたが、そのような事件は起こってほしくない。

⇒議員 令和5年度補正予算において、送迎用バスに設置する安全装置への費用補助が行われることを確認した。今後も注意深く議論していく必要がある。

○現在の保育士の配置基準がずっと変更されていないのは大きな問題であり、配置基準を改善して保育士の負担を減らす必要がある。市議会から国に対して声を上げてほしい。

⇒議員 子育て支援施策に関する国の動きをしっかりと見る必要がある。例えば、学校給食の無償化についても食育の視点も踏まえて国が実施すべきと考える。市単独では難しいため、周辺市町と協力して国に声を上げていく必要がある。

⇒議員 保育士不足の課題については当委員会で議論している。保育士が大変な思いをして重大な事故につながるようなことがないように引き続き議論していきたい。

⇒議員 配置基準の見直しについては、地元国会議員からも国に対して要望している。国の動きを見ながら、議会からもしっかりと声を上げていきたい。

○公立幼稚園・保育園において、新年度から保育士の人数が足りず、不安の声が上がっている。保育士確保のために市がさまざまな工夫をしてもらっているのは聞いているが、何とか人手不足に対応できる方法を考えてほしい。

⇒議員 担当部局からは、今回の公立幼稚園の応募者が倍増したとの報告を受けている。公立園は充足し、私立園が不足しているという各委員の認識であるが、改めて課題として当委員会で議論する必要があると考える。

○令和6年度から育休退園を廃止すると市長が表明したが、広報などで周知されていない。早く市民に知らせてほしい。

⇒議員 当委員会の議論の中では、「育休退園を廃止するまでになぜ1年以上かかるのか」「できる園から早期に対応すべき」との意見を担当部局に伝えた。

○新年度から認定こども園となる桜と富田は、これまでのこども園に比べると施設改修が十分に行われていない。施設面はもちろん、0歳児から受け入れるなど、利用しやすいこども園にしてほしい。

⇒議員 桜と富田の認定こども園については、園施設の老朽化や広さの課題が今後出てくると考える。必要な予算は付けていく必要があると考える。

○採用内定を出しても辞退者が出て、保育士が不足する状況となっている。やはり給料などの待遇が改善されないことには、保育士不足は解消していかないと思う。

⇒議員 保育士の人材確保のためには、処遇の改善はもちろんだが、行政、現場、議会がみんなで知恵を出し合って、保育士という職業が選ばれる職種になるような環境整備を行わないといけない。令和5年度は幼児教育センターがどのような役割を担い、いかに機能するのか注視する必要があり、保育士を支援していくことを期待している。

○なぜ公立園で休日保育を実施してもらえないのかという声を聞く。働き方が多様化し、休日に保育を必要とする親も増えている。休日保育を何園かの公立園で実施できるよう、委員会で議論してほしい。

⇒議員 ご意見として承る。

### 【シティ・ミーティング】

《テーマ：小中学校の諸課題について》

○学校規模等適正化について、水沢小学校の件を報道で知って興味を持っている。今後、河原田地区にも関係してくる課題であり、地域づくり、まちづくりに密接に関係する問題でもある。

⇒議員 子供の数が劇的に減っているのに、市内の小中学校の数はほとんど変わっていない。学校の統廃合には地域住民からさまざまな意見が出るが、子供たちの教育環境を最優先で考え、50年先を見据えた小中学校の再配置計画をつくるべきと考える。

⇒議員 小規模校では地元の小中学校や保育園等が連携したり、地元の企業や住民が参画したキャリア教育を実施したりするなど、小規模であることの良さもある。単に統廃合すればいいというものではなく、教育自体を考え直す時期に来ている。

○不登校の問題を何とかしないとけない。教育委員会に尋ねると専門の教員を配置して

適切に行っていると言うが、多くの不登校生徒児童に対応する先生はクラス担任も持っており、不登校に対応する先生の数が全然足りていないと思う。早い段階での対応が必要である。

⇒議員 不登校の問題を学校や教育委員会だけに任せるだけではなく、学校教育以外でも不登校になった児童生徒が選択できる道をつくる必要がある。特例校やフリースクールだけでなく、民間の専門的な団体に委託するなど、児童生徒の学びや育ちを支援するさまざまな道があることを示し、不登校になった児童生徒がそれらの中から選択できるような支援策を行うべきと考える。

⇒議員 児童生徒からの相談先を単に設置するだけではなく、相談しやすい場所や相手などは個々の状況によって違うと思うので、不登校となる原因やその対応方法について詳しく調査して不登校対策を行う必要がある。

⇒議員 コロナ禍の影響もあって、不登校やいじめの件数は増えている。就学前保育・教育も含めて、学校を取り巻く諸課題についてトータルで考え、委員会で議論していく必要がある。

⇒議員 不登校の問題は多くの課題がつながっている。公立の夜間中学の設置や、子供が学習意欲が持てるようなイェナプラン教育の実施など、子供たちが自分で選択できるような教育施策を進めてほしいと考えている。

○子供たちの放課後の居場所について、小学校低学年は主に学童保育所が担っているが、高学年の子供たちは放課後何をしているのか。最近では、スマホやゲームばかりする子どもも多いようだが、子供たちの健全育成をなおざりにしないような対応が必要ではないか。

⇒議員 保護者の就労の有無に関係なく、学校施設を使って無料で児童を預かる制度が他市にはあり、本市でも実施してほしいと考えている。国も放課後の居場所づくりを進める方向性であるが、実施には財政的な課題があると聞いている。

○現在の就学前教育・保育の中では、子供の将来を見越して思春期を目指した教育・保育をしていこうと考えている。小中学校で不登校になることの原因の一つには、やはり幼児期での保育環境もあると思う。幼児教育の在り方についても考えてほしい。

⇒議員 本市教育プログラムでは、策定の狙いとして「就学前～小学校～中学校の期間において、目指すべき子どもたちの姿」と示されている。この方針に沿って部局を越えて実際に行われているのか、議会からも問い続けていく必要がある。

⇒議員 幼保から小中学校への情報提供は行われているが、逆に、小中学校から幼保への情報提供やフィードバックを行うことも重要と考える。双方向で知恵を出し合っ  
て共有し、子供を支援するための連携を図ることで、地域でも子供を育てていく  
という方向性が見いだせるのではないかと考える。

○不登校の児童生徒に、体験型の教育を行ってはどうか。スポーツを行ったり、例えば、  
地場産品である萬古焼の技術を教えるような授業を行ってはどうか。

⇒議員 地域の人材を活用した教育については本市も進めており、これまでのボランティ  
アによる参画だけではなく、材料費などの費用の一部を支援していく方向性であ  
ることを担当部局から確認している。